

非鉄金属市況と需給動向

2023年5月（銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族）

独立行政法人 エネルギー・金属鉱物資源機構

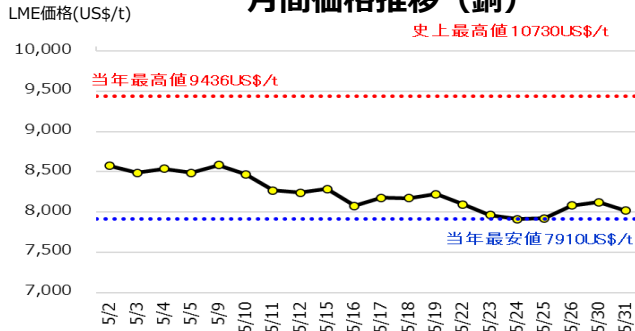
おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示していただきますようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

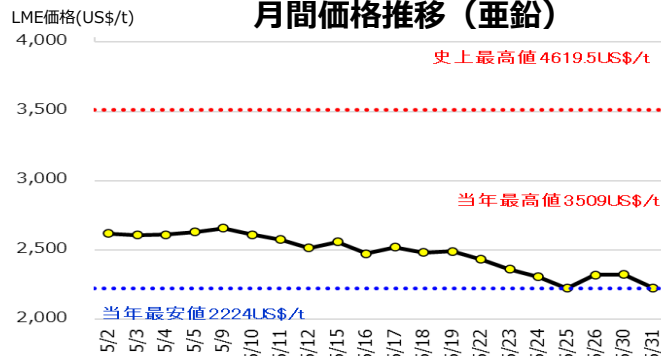
銅・亜鉛・ニッケルの全鉱種で当年最安値を記録、市場バランスの緩和により月を通して下落基調に ■5月市況動向

- ① **銅・亜鉛、初旬は中国労働節による休暇でほぼ横ばい**：当月の銅は8,573.0US\$/t、亜鉛は2,620.0US\$/t、4月30日に中国国家统计局が発表した4月製造業購買担当者景気指数（PMI）が49.2と2023年で初めて50を下回る中、3日に発表された財新の同PMI指標も49.5と前月・予測を下回り、ゼロコロナ政策終了後の中国経済回復が鈍化していることを示唆した。一方、3日まで続いた中国労働節による取引量減少のため同指標が与えた影響は限定的であり、また2～3日に開かれた米連邦公開市場委員会（FOMC）による0.25ポイントの利上げも市場予測と概ね合致したことにより、初旬はほぼ横ばいの推移に落ち着いた。銅と亜鉛もLME休場が明けた9日にそれぞれ8,583.0US\$/t、2,658.0US\$/tと当月最高値を付けた。
- ② **銅、低迷する世界経済が全面的に圧迫**：銅は需給の話題が少ない中、米・中経済に対する不透明感が重しとなった。10日発表された米消費者物価指数（CPI）の伸び率は前年同月比で4.9%と10か月連続で鈍化したものの、市場ではインフレの高止まりを警戒する米連邦準備委員会（FRB）が利上げの一時停止をする可能性は低いという見方が強まった。また中国において、11日発表の4月新規銀行融資や16日発表の鉱工業生産指数が市場予測を大幅に下回ったほか、地金輸出量が増加するなど需要の減退が浮き彫りになった。さらに米国で債務上限問題を発端として金融市場に不安が広まり、24日に当年最安値となる7,910.0US\$/tをつけるなど6か月ぶりに8,000US\$/tを下回る低水準となった。下旬、米国債務上限問題が合意に達したことで小幅に反発はあるも、月末は8,017.0US\$/tで終えた。
- ③ **亜鉛、中国での需給余剰感が下落に影響**：亜鉛は経済の低迷に加えて、中国市場の余剰感が下落要因となった。9日発表された中国輸入量は前年同月比7.9%減と前月を大幅に下回ったほか、3月の建設着工件数は同比19%減となり、メッキ向けを筆頭に中国実需の弱さが示唆された。下流工場の稼働率も低下しており在庫補充の動きも見られない一方、3月の地金生産量は644千tと前年同月比9%増と過去最高になり、市場バランスが緩和された。25日にはシンガポール倉庫への大量搬入でLME在庫が60%以上増加するなど、当年最安値となる2,224.0US\$/tをつけた。LME在庫はその後2020年以来の低水準を推移し、2,228.0US\$/tで越月した。
- ④ **ニッケル、インドネシアの供給増加が抑圧材料に**：ニッケルは24,235.0US\$/tでスタート。インドネシアでの供給増加により、3日に当月最高値となる25,100.0US\$/tを付け、期を通して下落した。INSG春季大会によるとインドネシアの鉱石および中間製品の生産量は増加傾向にある。また中国では2022年末にEVへの補助金の打ち切り以来バッテリー向け需要が低迷しており、ゼロコロナ政策終了後回復するという見方も後退した。さらに低水準のLME在庫やLME信用度の低さにより価格のボラティリティは大きく、19日のG7における英国の露産ニッケル禁輸導入も、同国ではすでに輸入に対する制限が存在することから支援材料にはならず、月末付けた当年最安値は20,450.0US\$/tと年初から23%下落している。

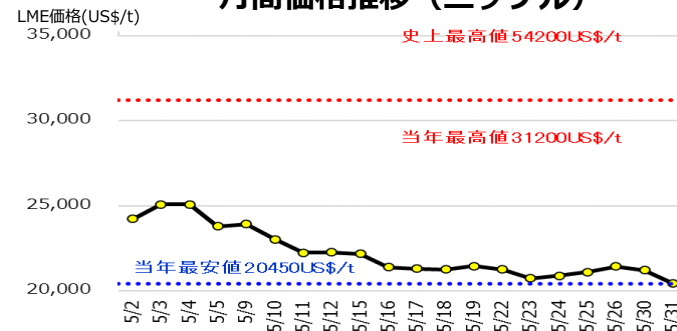
月間価格推移（銅）



月間価格推移（亜鉛）



月間価格推移（ニッケル）



需給動向 -銅-

2023年3月の地金生産量は前年同月比7.5%増加、同月の世界地金需給は2千tの供給過剰でほぼバランス

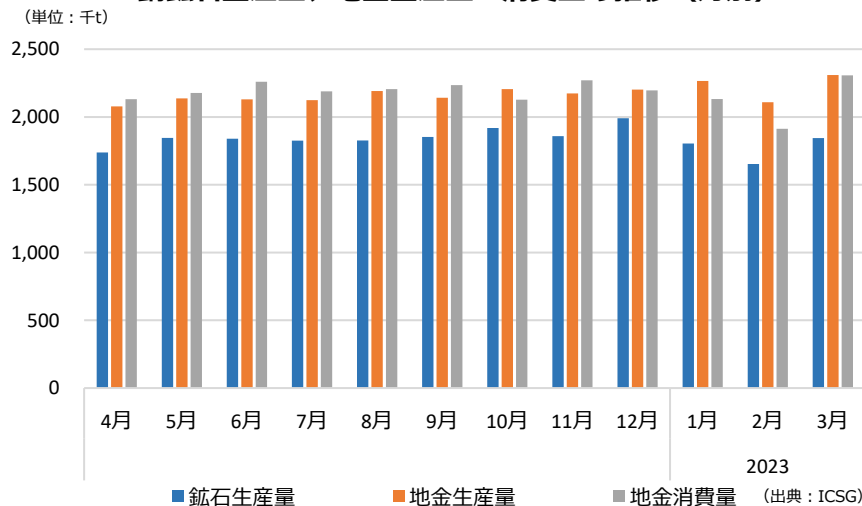
■需給動向（5月発表分）

- ① **2023年第1四半期世界鉱石生産量2.2%増**：国際銅研究会（ICSG）によると、2023年第1四半期の世界鉱石生産量は5,301千tで、前年同期比2.2%増となった。同期間ではチリでの品位低下、中央部での干ばつの影響等で2.2%減、パナマではCobre Panamá鉱山の一時生産停止などにより16%減。一方ペルーではQuellaveco鉱山等からの生産量増加により11%増、DRコンゴでもKamoa-Kakula鉱山の増産により15%増となった。なお2023年3月の鉱石生産量は前年同月比2.6%増の1,844千t。
- ② **2023年第1四半期世界地金生産量7.5%増**：ICSGによると、2023年第1四半期の世界地金生産量は6,685千tで、前年同期比7.5%増となった。同期間では中国とDRコンゴの生産量増が寄与しており、DRコンゴでは電解プラントの新設・増設により生産量が13%増加した。なお、2023年3月の地金生産量は前年同月比7.4%増の2,310千t。
- ③ **2023年の第1四半期世界地金消費量は2.6%増**：ICSGによると、2023年第1四半期の地金消費量は6,353千tで前年同期比2.6%増となった。EUでの消費量が前年同期比約2%減少した。なお、2023年3月の地金消費量は前年同月比3.5%増の2,308千tで、2023年3月の世界地金需給は2千tの供給過剰と、ほぼバランスしている。

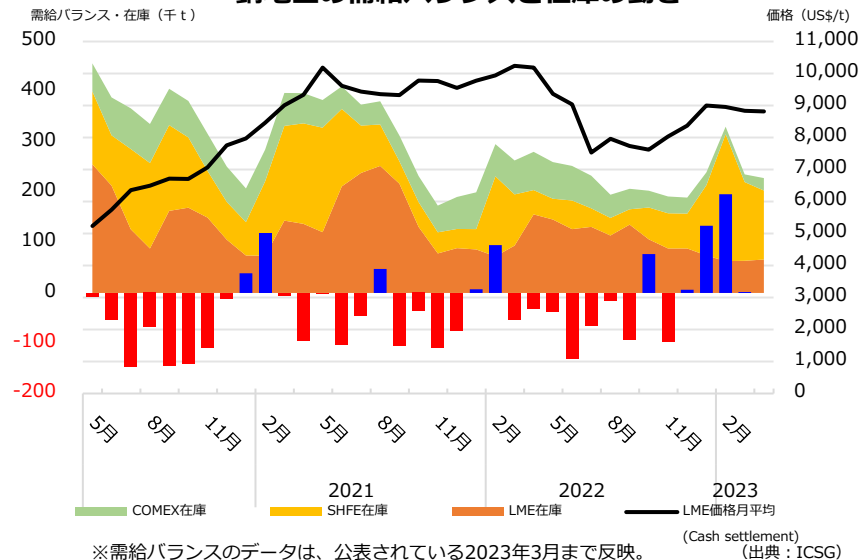
■企業動向

- ① **Chinalco Peru社（ペルー）**：Toromocho鉱山拡張プロジェクトについてエネルギー鉱山省（MINEM）からの指摘事項に対する回答書を提出。今後約30営業日で審査がなされ、まもなく許認可手続完了の見通し。本手続は同拡張プロジェクト第2フェーズにかかる鉱物処理権の変更に関するもの、拡張後の操業開始は2024年を計画（18日）。
- ② **Sandfire Resources社（豪）**：ボツワナMotheo鉱山において最初の銅精鉱を生産。2023年半ばの初出荷を予定し、初期粗鉱処理能力3.2百万t/年に対する設備コミッションと処理プラント増強を実施中（25日）。
- ③ **PTFI・AMNT（尼）**：2024年5月24日までの未加工鉱物輸出継続許可を獲得。2023年1月時点で各社の製錬所建設進捗率がPTFIは54.52%、AMNTは51.63%であることから、尼政府による2023年6月からの未加工鉱物輸出禁止措置が緩和されたもの（25日）。

銅鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



銅地金の需給バランスと在庫の動き



需給動向 -亜鉛-

ILZSG発表の3月需給バランスは2か月連続で供給過剰、堅調な生産と冷え込む需要で需給は緩和へ

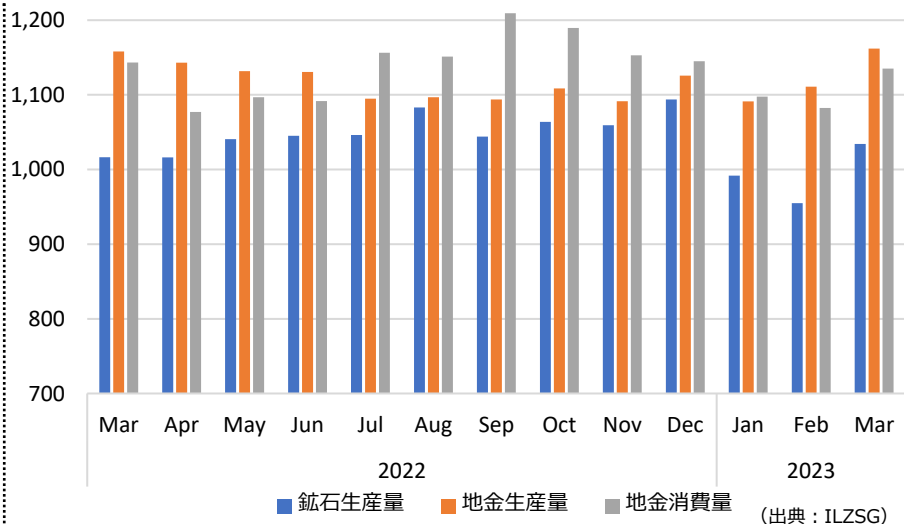
■需給動向（5月発表分）

- ① **2023年3月鉱石生産量は減少**：国際鉛亜鉛研究会（ILZSG）2023年5月発表によると、2023年3月の鉱石生産量は1,034.2千t（対前月比8.3%増、79.2千t増）と対前月比で増加した。前月まで春節など季節的な影響を受けていた中国で生産量の大幅な回復があり25%近く増産したほか、米国・スウェーデン・アイルランド・ボリビア・カザフスタン・トルコなどでも増産が見られた。一方、豪雨によりCerro Lindo鉱山が操業停止したペルーで18%減産したほかサウジアラビアでも減産したが、生産量への影響は小さく各国で堅調に増産した。
- ② **2023年3月需給バランスは前月に続いて供給過剰**：ILZSGによると、2023年3月の地金生産量は1,161.9千t（対前月比4.6%増、51千t増）、地金消費量は1,135.2千t（対前月比4.9%増、52.8千t増）で26.7千tの供給過剰となった。地金生産量は、仏Auby製錬所の2月下旬の操業再開により増産した。また中国では、雲南省の電力制限を受けた一部製錬所を除く大部分の製錬所で順調に増産したほか、オランダ・カナダ・豪州でも増産した。地金消費量は、中国で15%以上増加したが、世界経済低迷により需要が冷え込む中、米国・韓国・インド・日本・タイなど各国で減少した。消費量は前月比では増加したものの需給バランスは緩和しており、2か月連続で供給過剰となった。

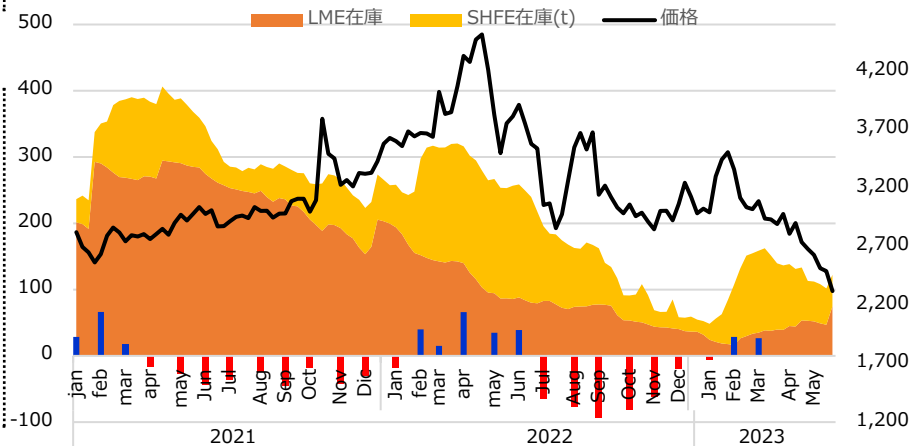
■企業動向

- ① **Ivanhoe社（加）**：DRコンゴKipushi鉱山、Glencoreとオフテイク契約を締結したことで2024年にも生産を再開予定に（2日）。
- ② **Hindustan Zinc社（印）**：インド政府など株主の承認が得られず、印Vedanta Group系列2社から一部亜鉛資産を買収する提案が失効（2日）。
- ③ **Ozernaya Mining社（露）**：露Ozernoye亜鉛・鉛・銀鉱山、2023年夏に操業開始を予定し、7月に初鉱石生産見込み（4日）。
- ④ **New Century Resources社（豪）**：豪雨により操業停止していた豪Century亜鉛鉱山、5月中旬に亜鉛精鉱の出荷を再開（26日）。

（単位：千t） 亜鉛鉱石生産量、地金生産量・消費量の推移（月別）



需給バランス・在庫（千t） 亜鉛地金の需給バランスと在庫の動き（単位：US\$/t）



※需給バランスのデータは、公表されている2023年3月まで反映。

需給動向 - ニッケル -

INSG発表の3月需給バランスは供給過剰幅がやや縮小、尼では国内資源囲い込みの動きが加速

■ 需給動向（5月発表分）

- ① **2023年3月プライマリーニッケル需給バランスは11か月連続で供給過剰に**：国際ニッケル研究会（INSG）2023年5月発表によると、2023年3月の世界ニッケル需給バランスは**6.6千tの供給過剰**となった。需給バランスは11か月連続で供給過剰も、3月の過剰幅は縮小した。
- ② **2023年3月のニッケル生産・輸出状況**：INSGの国別データによると、インドネシアのプライマリーニッケル生産量が102.5千t（前月106.4千t）となった。また、同国からのニッケルマットの輸出は、全体で24,259tと前月（24,565t）と概ね同量となった。

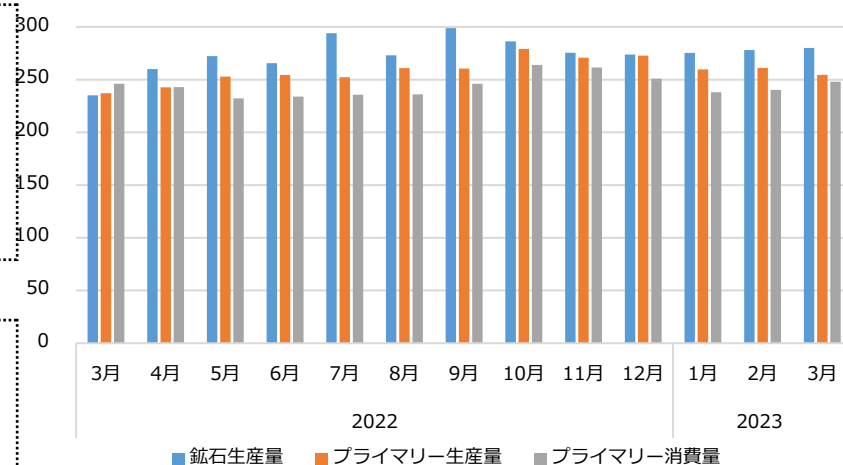
■ 関連動向

- ① **尼、低品質ニッケル投資を抑制する税制優遇措置を削減**：Bahlii投資大臣、「下流投資を促進するため、政府は今後NPIへの投資に対する税制優遇措置をとらない」と発言（4日）。
- ② **英、露産ニッケル輸入を禁止へ**：Sunak首相、2023年5月のG7首脳会議において、露産アルミニウム・銅・ニッケルの輸入を禁止する法案を2023年後半から導入予定と発表（19日）。
- ③ **カナダ、鉱物の安全保障を焦点に韓国と首脳会談**：加Trudeau首相が訪韓し尹大統領と首脳会談、ニッケル等のサプライチェーンや安全保障に関する協力強化について協議（17日）。
- ④ **中、Class1ニッケル輸入量が20年前の水準まで減少**：中国のClass1ニッケル輸入量が20年前と同水準まで減少、尼からのClass2ニッケルと中間製品の供給を重要視か（26日）。
- ⑤ **英Nusrat Ghani大臣、PTVI訪問**：重要鉱物に関する英尼の協力強化の一環で、Nusrat大臣がPTVIのSorowako製錬所を訪問（22日）。
- ⑥ **尼、ニッケルを重要鉱物に**：ニエネルギー・鉱物資源省、国内資源保護を目的にニッケル・錫を重要鉱物に分類する新しい省令を起草（30日）。

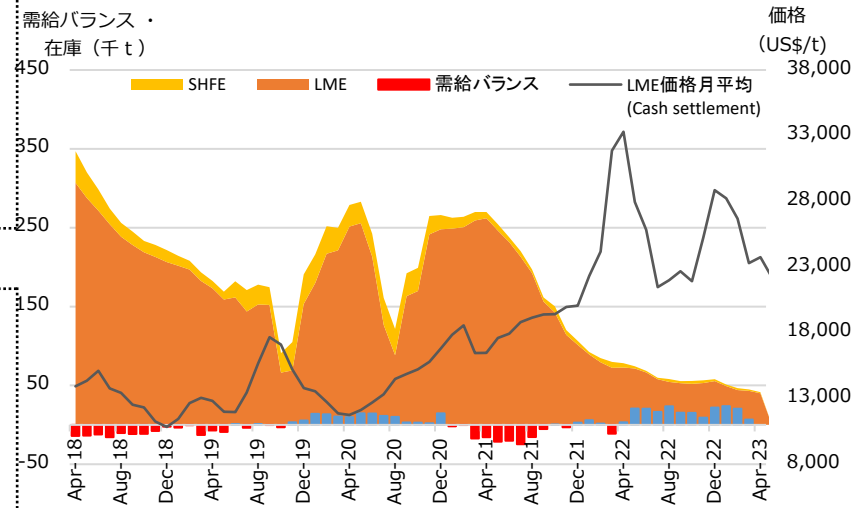
■ 企業動向

- ① **POSCO Future M社（韓）**：尼Halmahera島Weda Bay工業団地にニッケル精錬所を建設すると発表、2025年に生産開始予定（4日）。
- ② **GEM社（尼）**：尼Morowali工業団地で20千t/年の中間製品の生産を予定、500m\$の共同投資を発表（11日）。
- ③ **Lifzone Metals社（タンザニア）**：BHPによる支援を背景に、複数のEVメーカーや電池メーカーとオフテイクを交渉中（24日）。

（単位：千t）
350
鉱石生産量・プライマリーニッケルの生産量と消費量



プライマリーニッケル需給バランスと在庫の動き



※需給バランスは2023年3月まで、LME・SHFE在庫は2023年4月まで反映。

需給動向 -金・白金族-

金、相次ぐ米銀行の経営破綻や米デフォルトへの警戒感から高値も、デフォルト回避で月後半は下落

■金市況動向

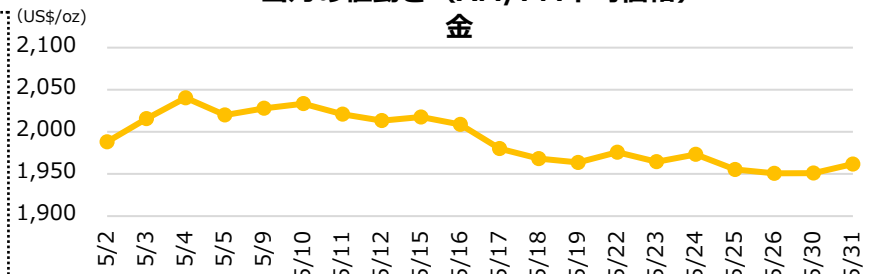
- ① **米、相次ぐ銀行破綻による利上げ観測で上昇、デフォルト懸念で高値を維持**：1日の英Early May Bank Holiday を挟み2日、1,988.2US\$/ozでスタート。同日、経営危機に陥っていた米First Republic銀行の預金・資産をJP Morgan Chase銀行に売却との報道で、前月から続く米銀行の破綻により、米連邦準備制度理事会（FRB）が年内に複数回の利下げに転じるとの観測が広まり上昇、4日に当月最高値となる2,040.4US\$/ozをつけた。8日の英国王Charles III世の戴冠式に伴う特別休日明けの9日の週、米債務上限問題を巡るBiden大統領とMcCarthy共和党下院議長等の協議が平行線に終わり、米国がデフォルト（債務不履行）に陥るとの警戒感から2,000US\$/ozを超える高値が継続した。12日、FRBのBowman理事が「インフレが高止まりし労働市場の需給逼迫が続く場合、追加利上げが必要」との見解を示したことで一時下落したが、月末に期限が迫る米債務上限問題の推移を見守るムードもあり、小幅な値動きをしつつ高値を維持した。
- ② **米デフォルト懸念払拭・回避で下落も高値を維持**：週明け15日も前週の高値を維持したスタートとなったが、16日発表の中・小売売上高が18.4%増、鉱工業生産が5.6%とそれぞれ予想（21.9%、10.9%）を下回ったことで中国での金需要の減退懸念等から下落、翌17日に2,000US\$/ozを割った。18日、米失業保険申請件数が242千件と前回（264千件）や予想（252千件）を下回ったほか、Biden米大統領と米議会指導部との間で米債務上限問題を巡る合意が成立、デフォルトは回避可能との自信を示したことで一層下落した。翌週、共和党担当者がこの問題の議論から離脱、Yellen財務長官が更なる銀行合併の可能性を示唆したことで22日一時上昇したが、米債務上限問題が合意に近いとの報道から26日、当月最安値の1,950.7US\$/ozをつけた。29日、Biden大統領とMcCarthy下院議長が債務上限問題で最終合意に達し、1,961.7US\$/ozで越月した。

■白金族（PGM）動向

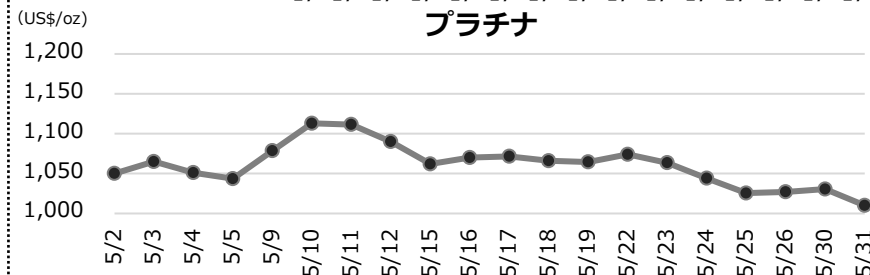
- ① **市況**：自動車触媒用途でプラチナがパラジウムを代替する動き等によりプラチナ需要が増加、プラチナは高値傾向の一方でパラジウムは安値基調が続いている。当月1,050.0US\$/oz(Pt)、1,456.0US\$/oz(Pd)でスタート、米債務上限問題等を背景に上昇、10日に当月最高値の1,113.0US\$/oz(Pt)、1,596.5US\$/oz(Pd)をつけたが、その後下落基調となり当月最安値の1,010.0US\$/oz(Pt)、1,393.5US\$/oz(Pd)で越月した。
- ② **需給予測（英Johnson Matthey社）**：2023年のプラチナ需給を128千ozの供給不足、パラジウム需給を43千ozの供給不足と予測。（15日）
- ③ **需給予測（英WPIC）**：2023年のプラチナ需給を983千ozの供給不足と予測。（15日）

当月の値動き（AM/PM平均価格）

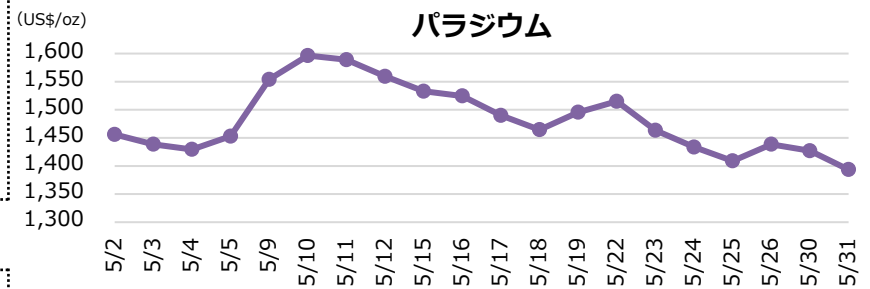
金



プラチナ

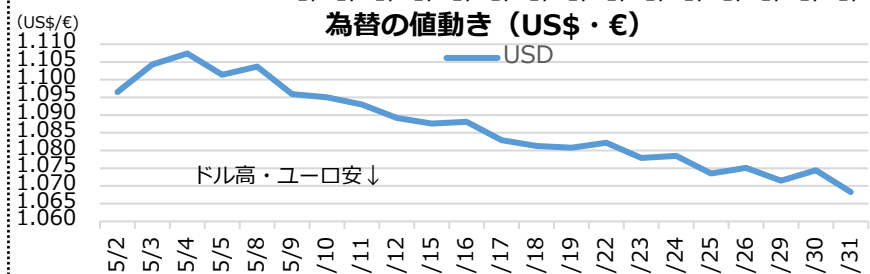


パラジウム



為替の値動き（US\$・€）

USD



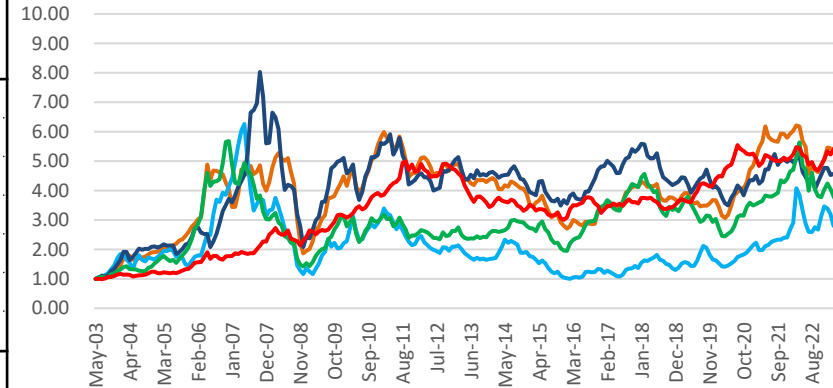
ドル高・ユーロ安↓

主要非鉄金属の価格推移

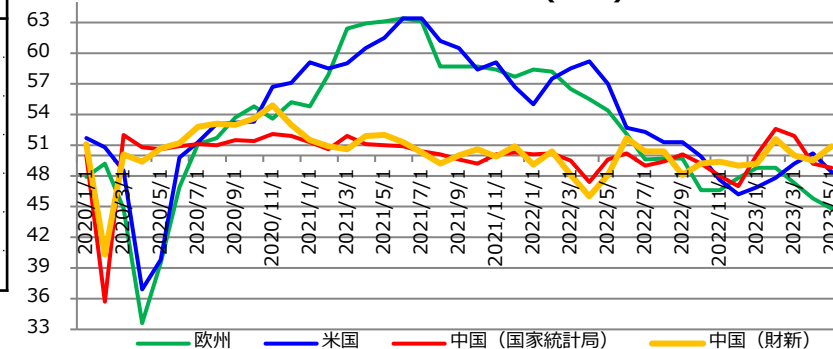
(JOGMEC作成)

(2003年5月 = 1)

銅 ニッケル 鉛 亜鉛 金



製造業購買担当者景況指数(PMI)



		銅 LME現物 (US\$/t)	亜鉛 LME現物 (US\$/t)	ニッケル LME現物 (US\$/t)	金 AM・PM平均 (US\$/oz)	プラチナ AM・PM平均 (US\$/oz)	パラジウム AM・PM平均 (US\$/oz)
本報告期	期 初	8,573.00	2,620.00	24,235.00	1,988.15	1,050.00	1,456.00
	期 末	8,017.00	2,228.00	20,450.00	1,961.70	1,010.00	1,393.50
	最高値	8,583.00	2,658.00	25,100.00	2,040.38	1,113.00	1,596.50
		5月9日	5月9日	5月3日	5月4日	5月10日	5月10日
	最安値	7,910.00	2,224.00	20,450.00	1,950.70	1,010.00	1,393.50
		5月24日	5月25日	5月31日	5月26日	5月31日	5月31日
	平均	8,234.28	2,477.70	22,229.50	1,991.48	1,060.55	1,483.18
先物 (5月31日)	3か月	8,047.50	2,342.00	21,150.00	—	—	—
	24-Dec	8,105.00	2,288.00	21,825.00	—	—	—
	25-Dec	8,125.00	2,285.00	22,785.00	—	—	—
2023年 (当年)	期 初	8,390.00	3,004.00	31,200.00	1,839.15	1,084.00	1,799.50
	期 末	8,017.00	2,228.00	20,450.00	1,961.70	1,010.00	1,393.50
	最高値	9,436.00	3,509.00	31,200.00	2,040.38	1,113.00	1,811.50
		1月18日	1月27日	1月3日	5月4日	5月10日	1月9日
	最安値	7,910.00	2,224.00	20,450.00	1,813.85	914.00	1,364.00
		5月24日	5月25日	5月31日	2月27日	2月16日	3月9日
	平均	8,771.16	2,935.40	24,854.12	1,928.98	1,017.16	1,539.14

米国経済	5月の製造業PMI (IHS Markit社発表) は48.4 (前月: 50.2、予測: 48.5) と下落し、予測・前月ともに下回った。5月非農業部門雇用者数 (米国労働省発表) は前月比33.9万人増 (前月: 29.4万人増、予測: 18.0万人増)、失業率は3.4% (前月: 3.5%、予測: 3.6%) と前月より改善し、堅調な労働市場を示した。
中国経済	5月製造業PMIは、国家統計局発表は48.8 (前月: 49.2、予測: 49.4)、財新発表は50.9 (前月: 49.5、予測: 49.5) と財新発表は50を上回ったものの、依然経済の低迷を示唆している。
欧州経済	5月製造業PMIは44.8 (前月: 45.8、予測: 44.6) と11か月連続で50を下回り、3年ぶりの低水準となった。